



2011年9月。瓦礫の向こうにジャズ喫茶「ヴァンガード」が見える。

震災からの復興 がれきの街のオアシス

ジャズ喫茶 「ヴァンガード」

東日本大震災で6mを超える津波に襲われた宮城県気仙沼市。壊滅的打撃を受けた港近くで「海の日」の7月18日、ジャズ喫茶「ヴァンガード」が復活した。店内を埋め尽くしたがれきはマスター兼オーナーの川原尚さんともう一人、店をきりもりする昆野好政さんとで取り除き、近所の職人に頼んでの修繕は4カ月余りで完了した。青空に向かって開け放たれた窓からは廃墟と化し、復興の足音がこだまする街が見える。

写真・文/松田典子

(写真家、NPO「復興博」でヴァンガード応援企画など担当。http://fukkohaku.jp)

「気仙沼にジャズを」 常連が集うジャズ喫茶

「気仙沼にジャズ文化を根付かせたい」という志で川原さんが「ヴァンガード」を開店させたのは1967年のこと。高校時代からジャズにはまり、NHKラジオ第二放送の番組「リズムアワー」を何よりの楽しみにしていたという。インソノテルラ、牧芳雄のジャズ談話が、ことにモダンジャズをめぐる話が大好きで、「ジャズ以外は音楽じゃない!」と思いつめるほどの入れ込みぶりだったとか。まさにジャズいちずの青春。

朝7時30分、営業開始の店には、8時30分を過ぎるころには人生のベテラン、平均年齢60代以上の男性客がいそいそと集まってきて、10を数えるカウンター席を占領していく。オープン当初か



マスター兼オーナーの川原尚さん。津波で泥だらけになってしまったレコードは、1枚1枚でいねいに洗って、再び棚に収めた。

ら40年以上通い続けているという猛者はともかく、ヴァンガード歴20〜30年という超顔なじみばかりで、「人生の大半を過ごした場所」「生活の一部だから」と口にする。それだけ絆が強いのに、愛情を真顔で語るのには照れるから、「2日來なかつたらみんな心配する。3日來なかつたら葬式も終わつたと思われ」といった軽口をたたき合って皆で大笑いしてしまう。嗚呼、いかにもジャズ愛好者らしいへそ曲がり、あまのじゃくぶり。

大切にしてきたレコードが 出番を待っている

3月11日まで店内でわが物顔に鎮座していたベテランのグラランドピアノは津波につかかってしまった。川原さん愛用の自作スピーカーをはじめ、アンプ、レコーダプレーヤー、CDプレーヤーまですべ



現在のオーディオシステムは、マスターが「英会話でも勉強しようと思って」購入しておいたラジカセを使っている。



震災後、新たに購入した中古ピアノ。店では定期的にライブも開催されている。

てさらわれた。月一回程度ライブがあることから、店再開に向け中古のグラランドピアノを調達。そして、今は薄汚れた小型ラジカセが代役として、マイルス・デイビスやビル・エヴァンスをかううじて

鳴らしている。「レコードプレーヤーがあればかけられるんだけどね」と、3,000枚ほどあるレコードたちが出番を待っている。決して上等とはいえないその響きに耳を傾けながら、湯気が立ち上る淹れたての、ちよつと濃いめのコーヒーを愛

でるようにすすする時の、彼らの満足そうな表情はどうだろう。もちろん間奏のようにして、談笑のインタープレイも堪能する。話題は津波のこと、遅れがちな復旧のこと、失った家やお店のこと……。しばしの追憶と祈りと想いの後、コーヒーのお代260円を残し、「どうも!」というマスターの元気な声に送られ店を後にする。次に向かうのは復旧の現場か。

心の復興を支える 被災者のオアシス

この店はたぶん、この港町の被災者のオアシスだ。だからこそ、震災前と同じ店構えにしたかったと川原さんはいふ。薄暗い店内には、昔からあるフードメニューボードがどつしりと壁に掲げられている。ライブステージのようにスポットライトを浴びた、いかにも年代物の木

製のカウンターの奥では川原さん、昆野さんがリズムミカルにサイフォンにお湯を注ぐ。一杯一杯、丁寧に淹れられたコーヒーとしゃれたジャズで傷つき疲れた心をリフレッシュし、仲間と悲しみと希望のセッションを奏でることで気持ちを立て直す、たぶんそんな場所。「ヴァンガードがなければつらい日常を過ごせない」と常連客たちは実際に口にする。あるいは、「音楽聴いてコーヒー飲んで、震災に負けないぞという気持ちになるよ」とも。経済的な、物質的な復興もさることながら、大事にしたのは被災された方々が「心の復興」を果たすこと。大上段に「復興はこうあるべきだ」なんて正論を決して振りかざさず、さりげなく小粋に、あくまで自然体で被災者の自立的再起を支え、応援する——そんな街のジャズ喫茶「ヴァンガード」がこれからも、ジャズとコーヒーで気仙沼の心の復興を支えてくれると信じている。

「ヴァンガード」に オーディオを!

現在CDラジカセしか無くなってしまった「ヴァンガード」に、オーディオシステムを寄贈して下さるオーディオメーカー・輸入商社・オーディオショップを探しています。お問い合わせは、オーディオ・ベーシック編集部(担当:小池)まで。なお、今回の募集は法人に限らせていただきますので、あらかじめご了承ください。



こだわりのサイフォンで淹れられるコーヒーには、1日に2度3度、店を訪れる常連客も。



「ヴァンガード」に集う常連客のなかには、20〜30年通い詰めている人も少なくない。